

資料 1 第一回討議内容まとめ

議論いただきたい論点

	現状		あるべき姿
人材育成・確保	クローズ（囲い込み）	→	オープン
	均質	→	多様性
	固定的な労働市場	→	流動的な労働市場
	安い賃金	→	質に見合う賃金
	働きやすさ	→	+ 社会的意義、豊かな暮らし
SDGs	社会的責任	→	ビジネス上の強み
	コスト	→	利益の源泉となる投資
	CO2多排出ものづくり県	→	CO2削減貢献県
	カーボン製品製造拠点	→	カーボンサイクル拠点
	個社での対応	→	企業会・地域での共創

委員からの主なコメント（人材育成・確保）

	方向性	委員からのコメント
人材育成・確保	オープン・多様性・流動的な労働市場	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の人口は減少する中、オープン・多様性は必然的 ・若い世代に大分の魅力を実感してもらう取組が必要 ・Z世代は、ジェンダー、ダイバーシティを重視 ・リカレント教育の充実
	社会的意義、豊かな暮らし	<ul style="list-style-type: none"> ・若い世代は、新しい技術や自分たちの力量が社会に役に立つかを重視 ・どのようなパーパス、ビジョンを描いている会社なのか、具体的なアクションを示すことなどが重要
	求められる人材像	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジョンを描ける力 ・知識を得るだけでなく知識を活用できる人材 ・デジタルを作る、使う、展開する人材が不足（デジタル教育が必要） ・課題解決能力、問題を見極める力が必要 ・理系・文系を融合した人材が必要
	業界の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・採用後のミスマッチを防ぐため、企業と教育機関の交流の場、学校の先生と企業の距離感を縮めることが重要 ・ものづくり産業において、個々の課題と経済的要因等を加味しながら、学問と産業を結び付けられる幅広い視点を持った人材の育成が重要

委員からの主なコメント（SDGs）

	方向性	委員からのコメント
SDGs	ビジネス上の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・ホワイト水素で全体を繋げ、コンビナートの強みを出していくことが重要 ・大分コンビナートにおいて、水素を発生させる企業と使用する企業のバランスをとり、役割分担をして取り組んでいくことも可能
	利益の源泉となる投資	<ul style="list-style-type: none"> ・競争力として、SDGsやESG絡みの取組をやっていなければ、世界の投資を呼び込むことができない ・投資を呼び込むために、生産拠点の多さを生かし、仕組みを作る側の技術と、仕組みを回す側の技術を一緒に進めていくことが大事
	CO2削減貢献県 カーボンサイクル拠点	<ul style="list-style-type: none"> ・生産拠点であるからこそカーボンニュートラルを目指す ・新たな仕組み・仕掛けを考えることは難しいので、その部分はスタートアップの力を借りることも重要 ・2050年のあるべき姿を明確に打ち出し、何をやるのか、そのギャップをどう埋めていくのかが重要
	企業会・地域での共創	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsの取組において、県内中小企業も色々と試行錯誤しながら進めているが、一社では難しい面もあるのでネットワークで展開していくことが大事 ・産学官で連携したプラットフォームは存在するが、本当の意味で機能する仕組みが重要